

## 9. 地域医療連携ネットワークシステムを用いた睡眠遠隔診療

社会医療法人春回会 井上病院

○吉嶺裕之

睡眠医療領域においては、専門施設および専門医の偏在化のために、患者のアクセスが困難な場合があり、遠隔医療システムを用いた遠隔診療の有効性が期待できる。

長崎県においては地域医療連携ネットワークシステム「あじさいネット」があり、情報提供病院 34 施設と情報閲覧施設 320 施設が、暗号化したインターネットを利用し、医療情報を共有することが可能となっている。また本システム内にあるテレビ会議システムを用いて、リアルタイムに遠隔診療の実践が可能である。すなわち、セキュアな環境下で、睡眠専門医 (D) が主治医 (D) の元を受診した患者 (P) に対し、睡眠専門施設にて行った終夜睡眠ポリグラフ検査の結果の説明を行う事が可能となっている (DtoD/P)。当日は実際の事例を供覧したい。

この遠隔診療と昨今普及しつつある持続的陽圧呼吸療法 (CPAP) の遠隔モニタリングシステムとを組み合わせることにより、CPAP 治療開始後もより効率的かつ効果的な睡眠医療を提供できる可能性がある。

当日は、睡眠医療の地域連携のあり方について皆様とディスカッションを行いたい。